

青少年委員だより

はたちをお祝いできました

第164号



令和4年4月12日、委嘱式が滞りなく行われ、今期の活動が始まりました。54名の委嘱で始まり現在では58名に増えました。令和4年の夏頃までは新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限されておりましたが、秋頃からは学校行事や地域の行事が少しずつ戻り始め、私たち青少年委員のトレードマークであるブルージャージでの活動もできるようになってきました。12月には北区で城北ブロック研修会が開催され、2月にはスポーツ推進委員とのポッチャ交流大会もでき、3月には10代の挑戦も行われました。

令和5年に入ると、5月に新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが変わり、より多くの行事が開催されるようになりました。9月に城北ブロック研修会を江戸川区で開催し、11月には青少年委員制度発足70周年の記念行事を開催することができました。

この2年間、青少年委員会活動に携わっていただいた皆様に心より感謝申し上げますとともに、これからもご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2年間を振り返って
江戸川区青少年委員会
会長 川島 英夫

11月定例会 野外研修



葛西海浜公園・臨海公園にて、野外研修として清掃活動及び防災体験をしました。清掃活動は、浜辺のゴミ拾いを実施しました。公園のスタッフからは、この時期、夏場よりもゴミは少ないと伺いましたが、思った以上にゴミがたくさん集まりました。

その後の防災体験では、水消火器を使った消火体験をしました。マンホールトイレは、初めて体験する委員が多く、戸惑いながら組み立てました。

災害時にマンホールトイレは必要不可欠だと認識しました。

文責 鹿骨地区部会 井上 功



1月定例会 レクリエーションの効果的な進め方



定例会にて、わくわくレクリエーション研究グループが『レクリエーションの効果的な進め方』として「金持ちじゃんけん」を実施しました。仮想の通貨を使い、じゃんけんでは通貨を増やすゲームです。

ゲームは大きく四段階構成で①挨拶をしてじゃんけん。②通貨の額を交渉してじゃんけん。③複数の人を集めて交渉をまとめてじゃんけん。④会社を作り団体で戦いを決めてじゃんけん。となつていきます。コソコソタイプや一攫千金タイプなど、相手の性格を確認しながらの交渉が必要で、お互いを理解することができた。勝負にこだわる方が多く盛り上がりました。

文責 葛西地区部会 片岡 昇



あとがき

コロナ禍を乗り越え、現在ではいろいろな活動ができるようになってきています。成人の日に行われた二十歳を祝う会で私たち青少年委員は、「はたちの手形」を担当し、二十歳の若者たちを大きな声で祝うことができました。盛り上がったその様子が東京新聞に紹介され、とてもうれしく思いました。

青少年委員の紹介は、私たちを身近に感じてもらうために始めた企画で、来期も続いていくことを期待しています。

広報部一同

江戸川区青少年委員
ホームページ



こちらの二次元コードを読み込んでいただくか、「江戸川区青少年委員」で検索してください。

江戸川区青少年委員

検索

青少年委員だより

発行 江戸川区青少年委員会
編集 広報部
連絡 江戸川区文化共育部
健全育成課育成活動支援係
TEL 03(5662)0357

はたちの手形 ～はたちを楽しむつどい～



文責
小松川地区部会
北村 守

1月8日「令和6年江戸川区二十歳を祝う会」が行われました。
会場内で私たち青少年委員は4年ぶりとなる「はたちの手形」コーナーを催しました。ここでは、今の気持ちやこれからの抱負などを、色紙に筆で書写し手形を押してもらいます。二十歳を迎え、希望に満ち溢れた皆さんの門出を祝い、沢山のエールを贈ることができました。

ウォーキングフェスタえどがわ 2023



文責
葛西南地区部会
木下 眞理子

11月23日水辺のスポーツガーデンで、4年ぶりとなる「ウォーキングフェスタえどがわ2023」が開催され、青少年委員も運営協力させていただきました。
“今年こそ歩こうよ！ 笑顔で楽しくウォーキング”をキャッチフレーズに、この日を心待ちにしていた1,137名の皆さんが、青空のもと心地よい汗を流しました。

青少年委員制度70周年記念事業

映画「みんなの学校」上映会



地区委員会、青少年委員OB、PTAの皆様など、180名以上の方々に、「みんなの学校」を鑑賞していただきました。後日色々な方々から感想が届きました。「とても良かった」、「こんな学校があったらいいな」、「あの校長先生、素敵です」、「続編があれば観たいな」、「最後は、涙が止まらなかったです」、「自分の地区でも上映会をしたい」。
この映画を通して、青少年委員会からのメッセージを、皆様へ届けられたと思います。



青少年委員制度70周年を祝う会

映画「みんなの学校」上映会終了後、同じタワーホール船堀内、福寿・桃源の間に場所を移して、青少年委員制度70周年を祝う会が開催されました。
斉藤区長をはじめ、江戸川区議会、学校関係者、東京都青少年委員会連合会、各地区委員長、10年間に退任されたOB・OGなどたくさんの方にご臨席を賜り、大いに交流を深めました。
祝宴中アトラクションとして江戸川区に関するクイズ大会も行われ、盛会のうちに終了しました。
文責
小松川地区部会
村上 則俊



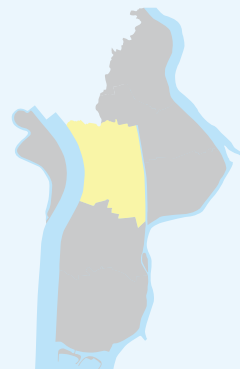
青少年委員紹介

青少年委員の方々を皆さんにもっと知ってもらうため、
前号に続き青少年委員を紹介します。

氏名 齊田 治

所属 中央地区部会
(松江北地区委員会)

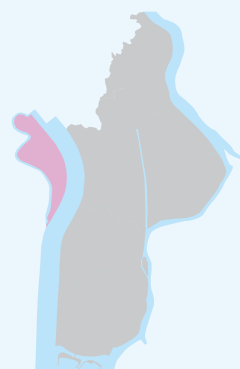
- ①私が町会役員の時、同じ町会役員で現役の青少年委員の方より、青少年育成松江北地区委員会で青少年委員の欠員ができたのでお願いしたいと頼まれたためです。
- ②子どもの気持ちになって一緒に遊ぶことならできそうです。
- ③今期「平和とSDGsを共に考える研究グループ」を立ち上げました。研究グループ活動を通じて、平和やSDGsについて私たちや子どもたちが知見を深めることは基より、子どもたちとの交流を通して子どもたちがどのような見方や考え方をしているかという実相を知ること、これからの青少年健全育成上の課題を明らかにできるのではないかと考えています。
- ④座右の銘は「水は低きに流れ、人は易きに流れる」
人が楽な人生を選ぶのは自然なのです。だからこそ、そうしてはならないと自戒して人生の選択をしてきました。



氏名 林 義弘

所属 小松川地区部会
(平井小松川地区委員会)

- ①平井南小学校のPTA役員になってから、地区委員会の行事に関わるようになり、PTA卒業後小松川地区の青少年委員の方からお誘いいただきました。
- ②ただの現場職人です。難しい事は教えられませんが、現場職人ならではの知恵とか工夫などで、毎日の生活の中で楽にできたり、便利になるようなちょっとしたコツみたいなことを教えてあげることにはできるのかなと思っています。
- ③地域に貢献できること、自分自身も感じた地域愛を子どもたちにも感じてもらいたいです。
我が子をもち地域のイベントを知り、PTAで地域の先輩方と知り合い（小学校のおやじの会、町会青年部、法人会青年部、電気工事組合青年部、神社など）、生まれ育った地元の町が改めていい町だなと思いました。
- ④座右の銘は「切磋琢磨」
これは小学生か中学生のころの漫画で出てきてどんな意味かと調べたのがきっかけです。将来好きな事で仲間と競い合うことができたらいいなと思っていました。成人して自動車の仕事をしていたころ、同じ系の4人で切磋琢磨しお互いに技術、知識を高めあう経験ができました。



質問は

- ①青少年委員になったきっかけ、②趣味や特技、自慢できること
 - ③今後青少年委員としてやってみたい事です。
- また今号では、
- ④座右の銘、または好きな言葉を、皆さんに紹介頂きました。



氏名 中川 隆

所属 小岩地区部会
(小岩中部地区委員会)

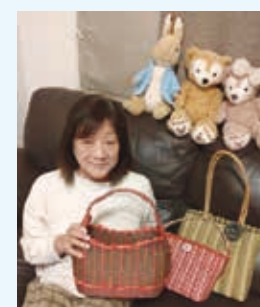
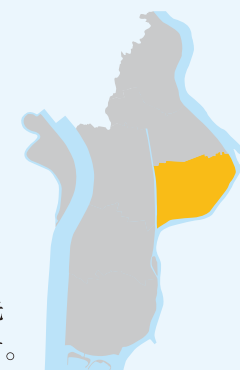
- ①自治会の青年部で活動していたところ、自治会枠で地区委員になり、自治会から青少年委員に推薦されました。5期10年間青少年委員として活動し、一度卒業しました。卒業し外から青少年委員会を見ると活動の様子が伝わっていないことを強く感じました。小岩地区部会の皆さんから復帰の要望を受け、青少年委員に戻りました。
- ②小学2年の時に入団したボーイスカウトは26年続け、中学生が中心となるボーイ隊の隊長として指導しました。野外活動、最近の言葉ならアウトドアがとても好きです。ボーイスカウトの写真は隊長時代のものです。
- ③青少年委員としては、中学生と一緒に活動することを多くしてきました。自治会では中学生が企画したイベントを作りました。地区委員会では中学生ボランティアが盛り上がるように尽力しました。これからは、小岩の中学生で何かを作っていきたいです。
- ④座右の銘は「やらなくてもいいことはやらない、やらなければならない時は手短に」
TVアニメ「氷菓」折木奉太郎の言葉です。色々なことに、つつい口を出してしまう性分の自分に対して、戒めの言葉です。



氏名 相川 美智子

所属 東部地区部会
(篠崎地区委員会)

- ①青少年委員として活動されていた方からお声掛けいただき、地区委員会から推薦されました。
- ②中学・高校とバレーボール一筋の青春時代でした。当時の先生方に応援をしていただいた事が良き思い出となっています。また誰とでも仲良くできるのが特技ですね。趣味はペーパークラフトかごバック作りです。
- ③青少年委員になってバルーンアートが得意になりました。私たちがかわかるイベントで子どもたちの笑顔のために良き応援隊でありたいと思っています。また手話にも挑戦したいと思っています。
- ④座右の銘は「勝つことより負けない事」
これはバレーボール一筋の高校時代、勝つことを目標に頑張っていましたが、自分自身に負けていることに気づき、この言葉は身に染みました。負けない根性を培った結果、先生方の応援も力になって、初めて府予選に出場することができました。おでんをご馳走してもらったことが、最高の思い出になっています。



研究グループ活動 2年間のまとめ

未来を担う人づくり研究グループ

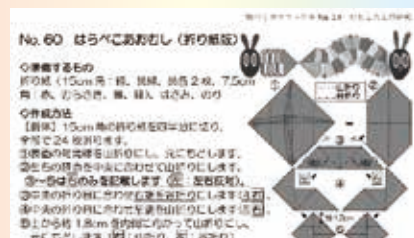
今期より、すくすくスクール・なごみの家に加え、子ども会へのアプローチの研究を開始しました。時を同じくしてメンバーの所属町会において、子ども会新設の動きがあり、見事結成に至るまでの過程を毎月の活動時にリアルタイムで共有するという貴重な経験ができました。これからは江戸川区の未来を担う子どもたちの安心・安全な居場所づくりを探索して行きたいと思っています。



おもしろ工作研究グループ

私たちおもしろ工作研究グループは、青少年委員会や各地域の行事などで、物づくりを通して、子どもたちに「手づくりの大切さと楽しさ」を知ってもらうことを目標に、今期は14名で活動し18回の会合で研修しました。

5種類の「物づくりマニュアル」の追加と定例会研修で物づくりワークショップの2回開催が今期の成果です。



子どもの文化体験研究グループ

「わがまちの良さを子どもたちに伝えよう」を活動テーマに、今期は葛西南地域の伝統文化（歴史・自然・行事など）を研究し、「葛西南たんけん隊」を実施しました。

1年目は地元の方々に、葛西南地域の歴史や変遷、伝統文化等についてお話を伺い、さまざまな場所に向いて調査し、地域文化の理解を深めました。2年目は、たんけん隊のコースと内容を決め、葛西南地区小学校長会のご協力で11校に周知していただき、多くの親子が申し込んでくれました。

当日は、葛西弁



竹とんぼづくり



葛西の昔話・紙芝居



葛西弁のお話



真蔵院にて



経箱担ぎ体験



転読体験

葛西南たんけん隊

のお話、葛西の昔話・紙芝居、竹とんぼづくり、大般若（江戸川区指定無形民俗文化財）より転読体験、経箱担ぎ体験などを実施し、参加した子どもたちと保護者より、とても貴重な体験ができて楽しかったとの声が多く寄せられました。地元の方々との人脈も広がり、有意義な2年間になりました。

平和とSDGsを共に考える研究グループ

今期新たに立ち上げたグループです。当初は紙面や施設見学で平和とSDGsについて学ぶことから始めました。

東部区民館での「10代の挑戦 EDOGAWA」では、グループ独自のパネル展示を行ない、現在は共育プラザ平井の高校生と「SDGs日めくりカレンダー」の作成活動を進めています。

高校生と交流できる場作りができたことが研究グループの活動成果です。



SNSを使った情報発信研究グループ

今期は行事が再開されたことにより情報発信の機会が増えました。しかし、発信が遅れてしまったこともありました。また、個人情報などへの対応を考えたSNS投稿マニュアルやPRチラシを作成しました。

SNS運用は、課題が多くありますが私たち青少年委員会全員がネットリテラシーを高め、上手く使いこなせば青少年委員会の未来につながると思います。

